

## 国立公園の保護と適正な利用

小笠原国立公園は、東京から約1,000km南に位置する亜熱帯の島々で構成され、概ね全域が国立公園(S47当初指定、H21拡張)。

(参考) 公園面積:6,629ha 公園利用者数:約4万人(平成24年)

独特の生態系に加え、発達した海食崖・多島海等、変化に富んだ島嶼景観を有する。また、サンゴ礁や熱帯魚、クジラ類等が見られる海域も大きな特徴。



父島南部の海食崖



ムニンツツジ(小笠原固有種)



ザトウクジラ



サンゴ礁を傷つけないよう係留ブイを利用するダイビング船

## 世界自然遺産としての管理



海洋島で独自の進化を遂げた小笠原固有の陸産貝類や昆虫類等に代表される生態系が評価され、平成23年6月、我が国4番目の世界自然遺産として登録。

国立公園のうち世界遺産としての価値が高く、特に自然性の高い範囲を登録。

登録に伴い観光客増加。その後減少するも高い水準で推移。

外来生物による希少種への影響が深刻化。世界遺産登録時のユネスコ世界遺産委員会からの勧告も踏まえて、外来生物対策と希少種の保全対策を推進。



希少な固有昆虫類を捕食するグリーンアノール(外来生物)



クマネズミ(外来生物)の食害にあった陸産貝類



固有性の高いカタマイマイ属の多様性(千葉聡HP)

外来種対策と希少種保全の拠点となる小笠原世界遺産センター(整備中、イメージ)

## 事項名

28年度予算・27年度補正予算  
(27年度実績額等) 単位:百万円

### 【国立公園の保護と適正な利用】

国立公園等整備費

4,644の内数(240百万円程度)

国立公園等民間活用特定自然環境保全活動  
(グリーンワーカー)事業費

281の内数(6百万円程度)

国立・国定公園の海域適正管理強化事業

85の内数(8百万円程度)

国立公園内生物多様性保全対策費

100の内数(56百万円程度)

### 【世界自然遺産としての管理】

遺産地域等貴重な自然環境保全推進事業

76の内数(13百万円程度)

特定野生生物保護対策費

291の内数(19百万円程度)

### 【小笠原諸島の海洋環境の保全や魅力向上】

海岸漂着物等地域対策推進事業

3,002の内数(11百万円程度)

エコツーリズム総合推進事業費

15の内数(1百万円程度)